

韓国 台湾へのブドウ輸出に事前登録制度

[韓国農林畜産食品部 2024年8月14日](#)

セジョン(世宗)、2024年8月14日 - 農林畜産食品部(MAFRA)は5月23日、ブドウ生産者と輸出業者に一定の安全基準の遵守を求める台湾向けブドウ輸出にかかる事前登録制度(以下「事前登録制度」という。)を導入した。この制度の目的は、台湾政府による輸入生鮮果実の通関手続きにおける安全検査の強化に前もって対応するとともに、韓国のブドウ輸出を上昇軌道に維持することである。

韓国のブドウ輸出: 台湾1千70万ドル(23.9%)、香港900万ドル(20.2%)、ベトナム770万ドル(17.1%)
台湾向けブドウ輸出: 2021年50万ドル、2022年220万ドル、2023年1千70万ドル(前年比393%増)

事前登録制度の下ではブドウの生産者と輸出業者に識別番号(ID)が付与され、ブドウの安全性が生産から輸出までの全工程を通じて体系的に管理される。

具体的には、台湾にブドウを輸出しようとする生産者及び輸出業者は、農村開発局による農薬の安全使用に関する義務的講習(段階1)、韓国農水産食品流通公社へのIDの申請と取得(段階2)、農林畜産検疫本部へのブドウの残留農薬分析結果の提出(段階3)、植物検疫証明書の取得(段階4)を完了する必要がある。

MAFRAのヤン・ジュピル食品産業政策局長は、「台湾へのブドウ輸出の事前登録制度は、韓国産ブドウの輸出競争力を高めるものと期待されている。韓国産ブドウの安全性と品質について広報活動を行い、今後もブドウの輸出を拡大していく」と述べた。

世界のアボカド市場(抜粋)

[FreshPlaza 2024年8月16日](#)

ペルーのアボカド輸出量は今シーズンも少なく、ヨーロッパ等の主要市場での在庫不足を招いている。ペルーでアボカドの木の剪定が遅れたことで、輸出可能量がさらに大幅に減少した。10月と11月にはペルーの輸出量の増加が予想される。

南アフリカにとっては、ペルー産の不足が好ましい結果につながった。ヨーロッパ市場の在庫が無いため、南アフリカはシーズン半ばの売上がこれまでで最も多かったと言われている。南アフリカの輸出シーズンは、終盤まで力強い結果が予想されている。

モロッコの輸出は9月中旬頃に始まる予定で、最大50%の増加と果実サイズの改善が予想される。

ルワンダからの輸出も9月中旬以降に始まり、中東市場からヨーロッパ市場にシフトするものと見られる。

スペインではバレンシア州のアボカドの収穫量が50%増加し、出荷と輸出が順調に進んだ。対照的に、アングダルシア州の主要なアボカド産地は、干ばつにより生産量が減少したが、それでも輸出は良好であった。

イタリアではアボカドの価格が高止まりしており、様々な産地から供給されている。

フランス市場では6月には高値であったが、供給量が増えるにつれて価格は横ばいになっている。

ドイツでは、ケニア、ペルー、南アフリカからの供給が著しく減少しているため、不足が予想される。

チリは現在、メキシコでの収穫量の減少により米国市場からの引き合いが強く、価格が高騰している。

イスラエルでは、今月中に来シーズンの早期の開始が見込まれる。イスラエルでは、最大25万トンの豊作が見込まれており、その約半分が輸出される。

オランダでは休暇シーズンのため、アボカド市場は軟調であった。

メキシコの出荷シーズンの終盤は、異常であった。最大の遅延は過去4週間の雨による供給への影響で、メキシコの出荷量が20%減少した。出荷量の減少にもかかわらず、米国では需要が鈍いと言われているが、6月にミチョアカン州での米国農務省の輸出検査が一時停止された後、価格が上昇している。

(以下、国別の詳細省略)